

都城市立大王小学校の学力向上への取組

1 学校の概要

- 学校所在地 都城市大王町20街区1号 〒885-0026

大王小学校は、宮崎県の南西部に位置し、緑豊かな都城盆地の中心都市、都城市の中心に位置する全校児童588名あまりの学校である。平成13年度よりきめ細かな指導を目指し、算数科を中心した研究を進め、学力向上フロンティアスクールの指定を受けた平成15・16年度も引き続き、算数科を中心とした少人数指導などきめ細かな指導の充実を図りながら、学力向上を目指してきた。現在、本校はキャリア教育推進校として研究を進めていますが、子ども一人一人のキャリア（生き方）にも大きな関連のある確かな学力を身に付けさせる研究はキャリア教育の一環として算数科の授業を中心としながら引き続き行い、全職員共通理解のもと、日々、指導方法の工夫と改善に努めている。

- 学校の教育目標

「知・徳・体・勤の調和のとれた人間性豊かな心身ともにたくましい児童を育成する。」

めざす児童像

- ◇ 進んで学ぶ大王っ子
- ◇ 思いやりのある大王っ子
- ◇ たくましい大王っ子
- ◇ よく働く大王っ子

2 児童の実態

- 本校児童は、全般的に明るく素直で、早朝のボランティア活動や清掃活動など積極的に取り組む姿勢がみられる。また、委員会活動への取組も積極的な面が多く見られる。学習面では、全般的には、積極的に発表を行ったり、難しい問題に挑戦したり、また、分からない問題に対しては質問や意見を交換しあったりなど、学習意欲が高い傾向にあるといえる。

本校児童は、これまでの5年にわたる算数科を中心とした研究により、一部個人差はみられるものの、特に算数に対する興味・関心や基礎・基本の定着が高まり、それにつれて他教科の学力も少しずつ伸びてきている状況にある。これは、年度ごとに行われる学力テストや到達度テスト等客観的データからも明らかになっていて、全体的に基礎・基本の確実な定着が図られてきているといえる。しかし、これまでの研究で計算力や問題の処理能力は高まってきたものの、文章題など数学的な思考力や臨機応変な考え方のもとに発展的・応用的に解決する問題の解決力に伸び悩みがあることも明らかになってきた。

3 学力向上に向けた経営方針

学校の教育目標のはじめに「すすんで学ぶ大王っ子」を掲げている。この目標では「基礎的・基本的な学力の定着を図り、自ら学び自ら考える力をもった児童の育成に努める。」という教師間の共通理解のもと、教科の学習指導や学習環境におけるきめ細かな指導の充実を通して、「学ぶ楽しさ」や「学ぶ喜び」を味わわせるとともに、「学ぶ価値」を感じ取らせて、基礎・基本の定着とともに「生きる力」を身に付けた児童の育成を目指すことにある。この目標に向かって、全職員が共通理解し、研修や日々の教育実践に取り組む体制づくりを校内研修を中心に行っている。

4 教育課程内の取組

① 授業に関する工夫・改善

○ 学習形態の工夫

以下のような算数科を中心とした課題選択別グループ指導、少人数指導、習熟度別グループ指導の実践を行っている。

少人数指導
 3年「かさ調べ」4年「円と球」
 5年「垂直と平行」6年「整数」
 概念の育成を行う上で大切な体験活動や操作活動を取り入れた場合の一人一人への関わりを増やし、基礎・基本の定着を図る。

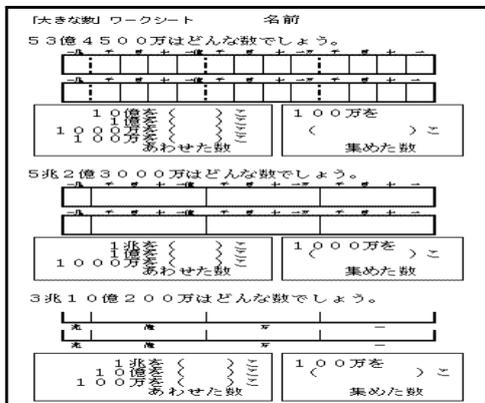
課題選択別グループ指導
 学年末や学年のまとめの段階での導入を計画している。本年度現在までの実施はない。

習熟度別グループ指導
 3年「長方形と正方形」
 4年「面積」5年「割合」
 6年「立体」
 学習内容のに関連した既習事項に顕著な差が見られる場合や学習速度の差を考慮して、児童の希望を重視して、より個に応じたきめ細かな指導のできる集団を編成し、基礎・基本の定着を図る。

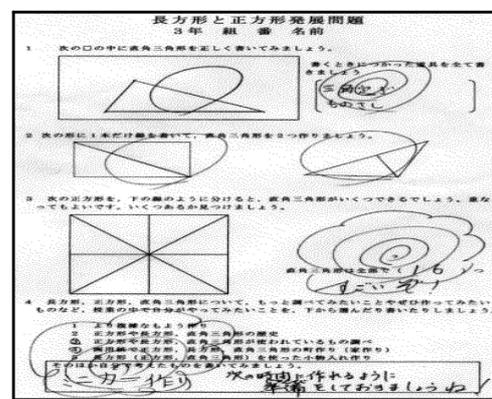


○ 発展的な学習と補充的な学習の実施

特に習熟度別グループ指導では、児童の実態に応じて、思考を深める発展問題、基礎・基本の定着を図る補充問題に取り組ませている。



4年「大きな数」自作補充問題の例



3年「長方形と正方形」自作発展問題の例

○ 児童による評価と教師による評価の活用

児童の自己評価カードの活用と教師の評価基準表による評価、定期テスト誤答調査等を活用し教材研究や個別指導に生かしている。今回児童のふり返りカード3年生以上では、記述

め	手	は	あ
			およその数を
			という。四捨五入には、
			と
			がある。
			上からつけたのがい数にす

式的感想が、授業を振り返る際に、本時の授業の基礎基本を、児童がしっかりと捉えられたかどうかを、教師がしっかりと確かめることができるように、あらかじめ書き込みの部分を作成し、より評価をやすくして、事後の補充指導に活かすことができる改善を図ってきた。

② 研修に関する工夫・改善

○ 実技研修の充実

教師同士で個別指導が難しいと思われる各学年の単元を拾い出し、その問題についてのロールプレイング実技研修を夏季休業中に実施した。（冬季休業でも実施予定）

各学年の系統性を理解して、各学年で押さえるべき内容を精選しながら身に付けさせていくことの大切さを感じました。

教師役の先生の感想（例）

分からないと言ったことに対して、段階的に説明して下さったので、よく考えることができた。このような段階的な指導を身に付けていきたい。

児童役の先生の感想（例）

③ 補充の時間の位置付け

○ 大王っ子タイム（朝の活動の時間）の活用

基礎学力を高めるために、定期的な繰り返し行っている基礎・基本取得のための学習活動を3年前から継続的に実施しています。特に漢字、計算、暗唱の3つに力を入れている。

曜日	月	火	水	木	金
内 容	大王っ子タイム (暗唱・漢字) ふれあいタイム (隔週で実施)	読書タイム (地域の方の 読み聞かせ)	大王っ子タイム (計算)	全校朝会 学年朝会 など	学級の時間

5 教育過程外の取組

① 校内環境の整備・充実

○ 校内掲示物の工夫



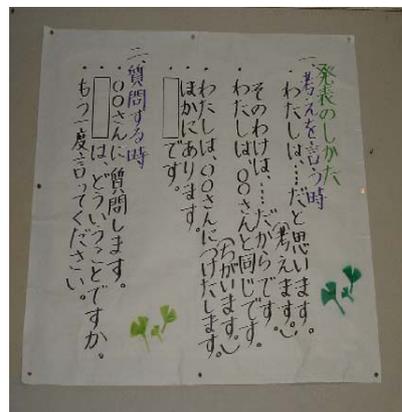
算数コーナーの設置

校内の各学年の廊下に、単元の学習中や単元終了後に、その学習を生かして楽しむことのできる問題や、学習に関連したお話などを掲示して、児童の興味・関心を高めている。



朗読・暗唱用詩の掲示

教室に、今月の詩として、毎月、各学年部毎の発達段階に合わせた詩を掲示して、朗読暗唱させることで覚える力をつける脳の活性化と言語活動の強化を図っている。



発表の仕方等

学習訓練内容の掲示
教室に、発表の仕方、話す約束、聞く約束、えんぴつの持ち方など学習訓練に関する掲示物を常掲して、学習を支える基礎技能の習得を図っている。

② 小・中連携活動

大王小学校は、小松原中学校と隣接し、1小1中の好条件を生かして、学力向上についての共同研究と連携活動を進めている。具体的な取組として、本年度は月1回の合同研修会の実施、お互いの授業研究会への参加、共同通信の発行、小学校からのキャリア教育の連携（小学校で職場訪問、中学校で職場体験）を行いました。特にキャリア教育についての連携では、児童、生徒に「学ぶ目的」「学ぶ価値」を捉えさせ、学力の向上を図ることも、両校の特色としている。

6 保護者・家庭、地域との連携

① 保護者・家庭との連携



家庭学習のしおりの発行
家庭の学習において、学ぶことを予習したり、学んだことを復習したりすることも、基礎・基本の確実な習得のためには大切だと考え、学期毎に家庭向けのしおりを発行している。

大王小学校と小松原中学校キャリア教育連携校です

小中合同通信の発行
キャリア教育や学力向上の取組を理解していただき協力を得るために「ドリム通信」を発行している。

大王小学校と小松原中学校の連携

確かな学力
確かな学力を身に付けた生徒の育成
～きめ細かな指導を通して～

小・中連携

リーフレットの発行
小・中学校の学力向上に対する取組を理解していただき、協力を得るために「家庭用リーフレット」を作成した。

② 地域との連携

- 学校自由参観日の設置

年1回、学校自由参観日を設け、地域の方々にも授業参観をしていただき、指導や学習環境面の意見を聞かせていただき、学習・生活指導に役立てている。

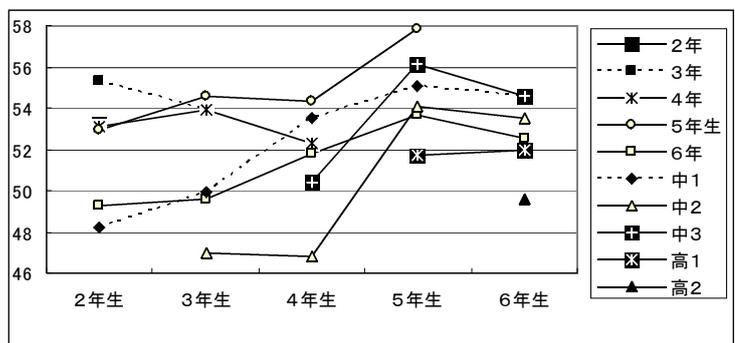
- 学校HPの開設

学校ホームページの中でも、学力向上への取り組みを広く地域に紹介している。

7 成果と課題（次年度の取組を含む）

〈成果〉

- 数値的には右図の学力調査の結果のように、これまでの取組で基礎・基本の定着が図られてきたといえる。



〈課題〉

- 現在進めているキャリア教育の研究とも関連させて、将来の目的意識をしっかりともち、「生きる力」につながる「学力づくり」をさらに進めていく必要がある。そのために、今後、道徳や学級活動の指導方法の研究も進め「学ぶ価値」を児童一人一人に捉えさせていくことも大切だと考えている。